

東日本大震災から5年

出雲発 被災地支援ボランティアの取組



2011年3月11日に東日本大震災が発生し、5年が経ちました。

出雲市内でも、個人・団体を問わず、現地での支援活動や義援金・物資の送付など、人的・物的支援の取組が行われてきました。出雲市総合ボランティアセンターや市内のボランティア団体等では、現在もその取組が継続的に行われています。

5年の節目を迎え、現地や出雲市内で行われている支援ボランティアの活動状況を紹介します。

出雲市総合ボランティアセンターの活動

総合ボランティアセンターは、震災の直後から、市内のボランティアや団体、機関等を中心とした連携によって、被災された方々を市内活動と被災地活動の両面から支援する場となっています。

「顔の見える支援」を目標に、できるだけ多くのボランティアに現地へ赴いてもらうお手伝いをし、島根県内での活動を含めると延べ約3千人のボランティアが活動を行いました。

また、早い段階から現地のコーディネートとの関わりが生まれたこともあり、主な支援先を宮城県亘理町に設定することで、地元(NPO)法人や社会福祉協議会と信頼関係をつくり、より地域とつながった支援が続いています。

◆出雲市総合ボランティアセンター 運営委員会 運営委員 永田哲也さん



永田さんは、震災発生直後からセンターにおいて支援活動を行うとともに、ボランティアコーディネーターとしてもさまざまな支援団体の活動を支えてきました。2014年9月に亘理町に移り住み、現在はボランティアとして「スタンドアップ亘理」などに所属しながら支援を継続中です。

「震災から5年が経過しましたが、東北の復興への道のりはまだまだ遠いです。宮城に住みいろいろな地域に出かけますが、地域ごとの進捗よくに復興格差を感じています。沿岸部には7mの防潮堤が作られ、その他の区画整備が進められ、少しずつ町の整備が進められています。また、生活面では仮設住宅から復興住宅等への移転が進んでいますが、地域によっては

まだ工事着手されていない場所もあります。

スタンドアップ亘理では、「にぎわい再生」をテーマにイベントを開催したり、他団体の催事のお手伝いをしたりしています。その中で、昨年の夏に「荒浜ロックフェス2015」を企画・開催しました。たくさんの方の協力を得て初開催することができ、当日は約6千人の来場があり、亘理町荒浜地区にぎわすことができました。今年も開催するため、準備をすすめています。

亘理は東北の湘南などと呼ばれ、温暖な気候を活かした果樹栽培が盛んで、特にいちごが名産です。郷土料理もたくさんあり、秋の「はらこめし」がとて有名です。夏のイベントやおいしい食べ物をきっかけに、宮城の今を見にぜひ足をお運びください。」

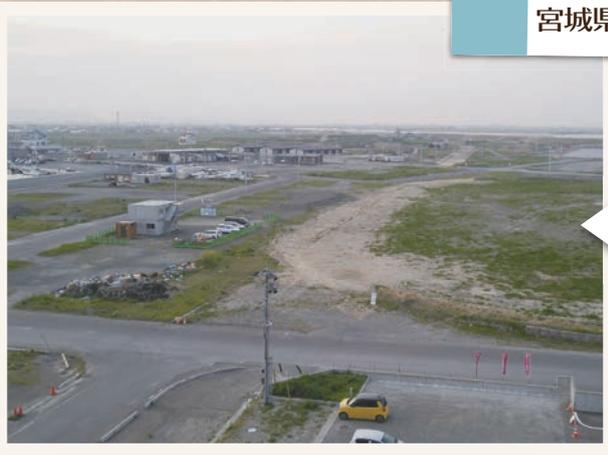


特産のいちご



はらこめし

宮城県亘理町荒浜地区の様子



【撮影：2015年5月8日】



【撮影：2011年4月25日】

市内ボランティア団体の活動

●ともだちネットワーク

できることから無理せず永く支援できる暖かい会にするという想いで、飲食サービスマンや音楽による癒しを宮城県南三陸町の仮設住宅の方々に贈るため、毎年被災地を訪問しています。代表の伊藤博人さんは、仮設住宅の状況をこう話します。「5年目に入り、新しく家を建てて出ていく方も段々と多くなる一方、これからどうしていこうかと不安を抱える年配の方も多くいます。仮設住宅に取り残されている不安、指定のアパートへの入居、そして仮設住宅の撤去など、今後の不安が大きくなっているようです。」



●出雲おりがみの会

震災後、おりがみを通して心の支援を行っています。代表の加田董子さんは、「今年度の出雲市民ボランティアウイークでも、小学生や市民の方がおりがみづくりに参加されました。この1年間、毎月、福島県



3か所の施設へ作品を送ることができました。協力してくださった皆さん、ありがとうございました。ありがとうございます。感謝の気持ちを表わされました。

●災害ボランティア いずも支援チーム

東日本大震災の支援活動から生まれ、代表の内田賢治さんを中心に県内外の災害支援を行っている会です。昨年は、メンバーの島根県立大学出雲キャンパスの学生2名が被災地を訪問しました。「震災から4年半経った宮城県へ行ってきました。現地で出会った被災者の方から『現実を受け入れるしかない』というせなら楽しく生きようと思っていな」と聞きました。被災していな



●地域からの支援

ボランティアセンターでは毎年、朝山コミュニティセンターを通して朝山幼稚園・小学校と朝山地域の方々が心を込めて作られた新米を支援米としていただき、亘理町の保育所に送っています。そして、そのお米やおりがみの送付代などは出雲聖園マリア園などからの支援金によって賄われています。



地域やボランティア、団体、機関など、それぞれの強みを活かしながら協働することにより、単独ではなし得なかった支援が行われました。日ごろからの「つながり」によって、災害時には即座に対応できるのではないかと考えています。

ボランティア・市民活動のご相談は

出雲市総合ボランティアセンター

(今市町北本町3-1-6)

☎21-5400 FAX21-1831

✉ volunteer@local.city.izumo.shimane.jp